

# BNCCT施設を熱心に見学

## 福島県議会の福祉公安委員会

福島県議会福祉公安委員会は5月15日(木)、(一財)脳神経疾患研究所が運営する郡山市の南東北BNCCT研究センターを視察しました。

一行は委員長の今井久敏、副委員長の佐藤義憲、委員の



治療室を見学する県議会福祉公安委員会の一行

椎根健雄、古市三久、宮下雅志、亀岡義尚、太田光秋、川田昌成の各県議。新たな先進医療として期待が高まるBNCCT(ホウ素中性子捕捉療法)について認識を深めるため、視察に訪れました。

同センターでは財団の渡邊一夫理事長、高井良尋センター長、廣瀬勝己診療所長、小野寺慶七顧問、大森正義法人本部署務局長、南東北福祉事業団の大谷英明管理局長らが迎えました。

渡邊理事長が「お陰さまでBNCCT研究センターは治療も順調に進み、最先端のがん治療施設として国の認可を待つ状態になっています。今後医療体制固めにさらなる努力

力をしています」とあいさつ。高井センター長がBNCCTの概要について説明しました。この後、県議団の一行は高

井センター長の案内で施設内を移動、治療室やサイクロtron(加速器)などを熱心に見てまわりました。

身体の一部に神経痛のようなピリピリする強い痛みを感じたら帯状疱疹かもしれない。帯状疱疹は水ぼうそうと同じ水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされます。

しかし、高齢者や重症の場合には後遺症が残るケースがあり、辛い痛みが長く続きます。これを「帯状疱疹後神経痛」と言い、高齢になるほど出やすいと言われています。

### 帯状疱疹 発症したら 早目に治療を

痛みが数日から1週間続くと、知覚症状から皮膚症状に進行します。皮膚に赤みを帯びた小さな水泡の群れが現れます。水泡は1週間から10日ですぶれ、赤くただれ、数日がかさぶたになり、やがてはがれ落ちます。皮膚症状が治まるに連れ、痛みも消えていきます。

帯状疱疹の原因となるウイルスの増殖は、皮膚症状の発症から72時間(約3日)でピークに達します。帯状疱疹後神経痛を起さないようにするには、この段階での適切な治療が重要です。異常を感じたら、放置せずに早目に皮膚科を受診することです。

# コンチネンスケア外来

## 南東北医療クリニック

コンチネンスとは排泄のコントロールがついている状態を表す言葉です。コンチネンスケア外来は、排泄の問題でお困りの患者さんに治療とケアを行い、問題を解決できるよう関わります。ケアは生活の中でできる工夫、排泄のセルフケア・介護のアドバイス、用具・用品の紹介、カウンセリングなどです。

以前は「失禁クリニック」の名称でしたが、失禁に限らずさまざまな排泄(排尿、排便)の問題に関わるため現在の名称に変更しました。

排泄の問題には「尿や便が出にくい」「トイレが近い」といった場合もあり、生活のしにくさに直結します。病院に行きにくく、相談もしにくい面もありますが、受診することによって症状が改善したり、問題解決の糸口が見つかったりしますので、お困りの方はぜひご相談ください。

### 【診療日】

毎週木曜日

### 【担当】

診察医 = 深谷保男先生 (南東北医療クリニック院長)  
ケア相談・指導 (看護・介護) = 梶原敦子保健師 (日本コンチネンス協会教育事業部)

### 【電話 (予約専用)】

フリーダイヤル  
0120 - 14 - 5420

## こちら専門外来 ⑤



☆友近やつくんがライブ  
総合南東北病院ボランティア紙ふうせんのふれあいコンサートは、5月14日(火)午後1時半から病院北棟NABEホールで開かれ、書道家でシンガー・ソングライターの友近890(やつくん)が歌と書のパフォーマンスで聴衆を元気づけました。写真。

やつくんは、愛媛県今治市出身で40歳。平成19年に28歳で音楽活動を開始。平成23年に東日本震災の被災地ライブを行ったのを契機に全国各地の福祉施設や学校、保育園などを訪れライブ活動を展開、笑顔を届けています。

今回は新たな東北・北海道ツアーの最初のライブ。自作の曲のほか、「青い山脈」「翼をください」「上を向いて歩こう」「川の流れるように」などを、時には聴衆と一緒に歌いました。書のパフォーマンスでは歌いながら大きな紙に「こころ」「響」の文字を書き、聴衆を驚かせました。

## 院内トピックス